

平成30年度小山高等学校進路指導部全体計画

1. 目標

志望する進路に向けて、逞しく努力できる生徒の育成を目指し、個々の生徒の進路希望が達成できるように指導する。

2. 進路指導部の努力点

- (1) 将来の目標『なりたい自分』を明確に設定させる指導を実行する。
- (2) (1)の目標達成のために、当面の目標を明確に設定させる。
- (3) (2)の目標達成のために、主体的に根気強く努力できる生徒の育成のための指導を実行する。
- (4) 個々の生徒の能力・適性・個性に合った進路指導を推進する。
 - 個に応じた進路を主体的に決定させる指導を適切に実行する。
 - 職業観・勤労観を向上させる効果的な指導を実行する。
 - 職業研究や大学研究等の進路学習を充実させ、将来を見据えた自己実現が図れるよう、3年間を通じた体系的な進路指導を実行する。
- (5) 学習指導部と連携した下記の取組を推進する。
 - ①低学年(1, 2年次)における基本的学習習慣の定着強化を図る。
 - ②『学習指導・進路指導の基本指針』の一層の改善を図るとともに、全職員に周知徹底・共通理解を図り、確実に実行する。
- (6) キャリア教育について、総合的な学習の時間等を活用して、アクティブラーニング型授業展開する等、効果的に企画・実行する。
- (7) 課外等、実施方法・内容等の充実に努める。
※ICT活用：スタディサプリ(Recruit) 検討：Classi(Benesse)
- (8) 進路指導に役立つ資料・情報等の収集・作成及び生徒の希望進路実現するために必要な学校環境の整備・充実に努める。
- (9) 「受験は団体戦！」仲間の声を力にし、『One for all ,All for one』の雰囲気を生徒及び教員に醸成し、チーム小高への意識を高める。
- (10) 高大接続改革に向けた教員の意識の向上と理解を図る。

3. 進路指導部の指針

『生徒のモチベーションを上げる』仕掛ける・攻めの進路指導』

◎『行き先』指導ではなく、『生き方』指導

「信じる」Trust! (生徒の可能性を信じる)

「育てる」Foster! (生徒の夢と幸せなれる人間力を育てる)

「支える」Support! (生徒本来の良さ・学力・心を支える)

4. 努力数値目標

現役	普通科文系		普通科理系		数理科学	計
	1組	2・3組	5組	4組	6組	
2010	13	4	24	6	22	69
2011	15	9	29	5	8	66
2012	13	7	24	0	11	55
2013	23	4	18	4	7	56
2014	16	5	22	3	10	56
2015	34	7	27	1	11	80
2016	20	3	18	3	10	54
2017	13	3	31	6	8	61
平均	18	5	24	4	11	62

①国公立大学合格者数（現浪計）

2014年度〔65人(56)〕 → 2015年度〔84人(80)〕

→2016年度〔63人(54)〕 → **2017年度〔68人(61)〕**

◎現役60人以上を目指す！！

◎将来,安定して70人以上合格できる進学校に！！

②地元国立大学〔宇都宮大学〕 15人以上

2013年度 11人 → 2014年度 10人 → 2015年度 16人

2016年度 11人 → **2017年度 13人**

③準難関以上国公立大学 5人以上

〔東北・筑波・北海道・他旧帝大・東工・一橋・お茶の水女・東京外語・東京農工・千葉・金沢・医学科等〕

2013年度 4人 → 2014年度 5人 → 2015年度 5人

2016年度 5人 → **2017年度 6人**

④準難関以上私立大学 20人以上

〔早慶上智理科大・GMRACH・同志社・立命館等〕

2013年度 16人 → 2014年度 17人 → 2015年度 26人

2016年度 41人 → **2017年度 39人**

◎本校は特にセンター試験の点数が、入試結果に多大に影響を与えるため、各教科において**センター試験で全国平均を超えることが、最重要数値目標！！**

◎基本的には、生徒一人一人の本来の実力・可能性を最大限発揮・志望校合格実現するために、丁寧に・一生懸命・全力で指導することが、数値目標達成が実現するための唯一の手段であることを共通理解！！

5. 効果的な進路指導のための 2つのキーワード

(1) 3年間の指導ストーリーを確立する！ ～キーワードその1～

- ・系統的、段階的に(タイミングを重視し)、きめ細かな指導を行い、「旬」の時期を逃さず「仕掛ける」。
- ・指導と講話には魂を込める
→教師、時にはカリスマ、時にはカウンセラー、時には教授、時には役者、時には父親・母親・兄・姉

<1年次進路指導>文理選択・職業理解

<2年次進路指導のトピックス>大学内容・学部・学科理解、受験について理解を深める

<3年次進路指導のトピックス>

- ①総体後の切り替え
- ②夏休み前 指導：学習計画(何度も書き直し)「夏を制する者は入試を征する」の「制する」の具体的方法を提示。
- ③夏休み明 指導：大半の生徒が夏明けには多かれ少なかれ不安・焦りを感じる。モチベーションを下げないように、かつ焦りを和らげられるよう指導。
※卒業生との懇談会・学年集会・進路受験指導・卒業生による合格体験談等
- ④学校祭後の切り替え：バーンアウトシンドロームにならないよう、精神論を振り回すだけでなく、具体的な材料を示して気持ちを切り替えさせる。

～指導の転換期 「厳しい監督」から「サポーター」へ～

- ⑤秋～冬： あきらめさせない指導、気持ちを鼓舞する仕掛け、団体戦！
- ⑥冬～春： 自宅学習期間も自習室開放。
小論文・英作文等の個別指導および補習で最後まで粘らせる。

《仕掛け》 生徒の心理状態やモチベーションの昇降に合わせて、「この時期にはこの話を！このタイミングでこのメッセージを！」という指導・講話(魂を込めた言葉の力)が、体系的進路指導・進路実現のエネルギーの源につながる！

(2) 仲間の声を力にする！ ～キーワードその2～

◎旬(タイミング)を逃さない、声かけ！

「受験は団体戦！」仲間の声を力し、One for all, All for one のみんなで頑張る雰囲気・仲間への「気づき」が生徒を成長させる
雰囲気チーム小高への帰属意識を醸成。→「チーム小山」の意識

6. 主な具体施策

(1) 学習指導と進路指導の基本指針を、全職員に周知め共通理解させるとともに、その確実な実行を図る。

(2) 進路意識の高揚と進路学習の充実

◎進路意識、学習意欲・受験に頑張る気持ちの喚起・高揚、受験の傾向と対策、戦略、入試情報の提供
今年やるべきことをLHR・総合的な学習の時間等などを通して、3年間計画的に進路学習を実施する。
実施後は、各行事・ガイダンスを効果的にするため、事前指導・事後指導の充実を図る。

【進路・受験指導】

《3年生》1学期：4月24日(火)⑥⑦ 2学期：9月4日(火)⑥⑦

《2年生》1学期：5月8日(水)⑦ 2学期：10月16日(火)⑦ 2月20日(水)⑦

《1年生》1学期：5月30日(水)⑦ 2学期：10月2日(火)⑦ 2月20日(水)⑦

【一日大学体験】《1年生》10月15日(月)茨城大・東京理科大・茨城県立医療。

【学部・学科説明会】《2年生》7月4日(水)宇都宮大・山形大・群馬大・茨城大・長野大等。

(3) 進路指導部長面談の実施

○3年生志望校志望の実態把握と検討会議資料作成の精度を高めるため、進路部長面談を実施する。

(4) 志望校検討会（7月）、出願検討会（12月）のさらなる充実

○分析会議資料の作成は、岡田・松本先生中心に作成。

また、Compassによる進路指導部の志望校検討について、下記の体制で実行する。

文系〔【司会】津布樂 【助言】加藤・津布樂・田中 資料作成：加藤〕

理系〔【司会】松本 【助言】松本・和久井・田中 資料作成：田中〕

(5) 模試の活用の充実

1 校内模試の意義向上と充実

◎平均は、35%程度!!

◎難易度を例年ほぼ同じになるように、作問をお願い致します!!

また作問の際、全国大学入試問題正解・模擬試験等で、近年の入試問題の傾向も把握していただければと思いますので、よろしくお願いします。

また、本校は、過去8年間分析すると、

国公立大【文系】合格平均 395点(44%)

※昨年度394点

国公立大【理系】合格平均 385点(43%)

※昨年度385点

宇都宮大合格・センター全国平均 395点(44%)

※昨年度395点

と、ほぼ一致しており、問題については難易度は一定かつ適切・良問な証拠である。

このことから、本校校内模試の精度が高いと評価できる。

●今後、さらに校内模試の素点で、合格可能性が図れるように、より一層、校内模試の精度を上げていきたい!!

2 校外模試の活用の充実

1. 模試実施後

○できれば実施の次週は授業や土曜課外等で解説をする。（特に、3年生）

○模試実施後の週や週末に、朝学・週末課題等で復習を指示

※復習プリント・各自間違い直しノートなど活用し、徹底させる。

2. 分析資料の充実

①各教科別に弱点分野ややるべきことが明確にわかりやすく、今後の指導に具体的・効果的に指導が実践しやすいような分析資料を提供する。

②教科バランス等も明確に分かる資料を提供し、必要に応じて各教科間の課題等バランスを学習指導部と連携して、できるだけ迅速に調整をする。

③3年1学期までの模試結果より、3学年2学期からの平常課外について、必要があれば関係教科に調整する。

3. 事後指導

○答案を返却する際、「正答率一覧」※進路指導部で用意、振り返りシート等を活用し、各教科の反省と次回の目標を具体的に書かせる。

・気になる生徒等から速やかに個別面談を実施。

(6) 模試分析会・志望校・出願・国公立出願検討会の実施

○3年生 7月志望校検討会、12月出願検討会 センター試験後、国公立大出願検討会
模試結果より、担任・教科担任で検討会を実施し、今後の指導に役立てる。

○進研模試分析会 ※下記日時16時10分～

○3年生：《6月》7月18日（水） 《7・9月》10月12日（金）

○2年生：《7月》9月13日（木） 《11月》12月14日（金）

○1年生：《7月》9月11日（火） 《11月》12月18日（水）

(7) スタディサポートの充実

1年生・2年生 各春・秋2回実施

Benesse担当者から、その結果に基づき分析会を実施して、担任・関係教科担任に対して、現状の学習・生活状況の把握及び今後の指導について、目線合わせ・共通理解を行う。
また、面談指導の充実を図る。

◎分析会 ※下記日時16時10分～

○2年生：《第1回》5月18日（金）中間テスト② 《第2回》10月16日（火）

○1年生：《第1回》5月18日（金）中間テスト③ 《第2回》10月23日（火）

(8) 学習指導部と連携した基本的学習習慣形成に関する指導

低学年次における基本的学習習慣の形成をいかに図るかが重要な課題であることから、上記(7) Benesseスタディサポートの結果及び分析会等の内容を踏まえて、学習指導部と連携して、以下の日程で、学習力強化指導を実施して、その課題の解決を図る。

○2年生： 5月22日（火）⑦ ○1年生： 10月30日（火）⑦

※特にその際、本校生徒は、模試・テスト等の繰り返し学習（2回程度）により、最も効果的に学力がつくことを生徒に強く指導し、その徹底を図る。

(9) AO・推薦入試の指導について

本校にとっては、本校生徒の学力の状況を鑑み、推薦入試を積極的に活用する戦略は必須・必要だと考える。ただし、あくまでも一般入試でも合格できる学力をつけることを大前提に、安易に推薦に頼ることがないように注意して指導し、またあくまでも本人が希望する大学であることを確認し、さらに本人の適性、担任と本人、保護者がよく相談した上で、希望する場合に積極的に受験させる方針で勧めていく。

○AO・推薦入試を低学年から適切でかつより効果的な指導を行う。

○志望理由書・小論文の指導などを低学年から計画的に行う。※総合的な学習の時間を活用

(10) 小論文指導（体制）の充実

◎国語科と連携・協力しながら、推薦、二次試験等に対応できるよう、3年間を見通した小論文指導の計画を立て、小論文模試の活用等、指導内容を充実、指導体制を確立する。

◎読書を奨励、新聞等を有効利用し、興味や知識を広げ、学習意欲の喚起につなげる。

(11) 面接指導（体制）の充実

◎効果的な面接指導の事例等、指導事例等実質的に参考となる資料を提供し、より効果的な指導ができるよう支援したい。

(12) キャリア教育の充実

【目的】社会的・職業的自立に向けて必要な基礎的・汎用的資質・能力の育成を通して、職業観・勤労観の育成、学校から職業への円滑な移行等、キャリア発達を図る。

JTBとチームを組んで、アクティブラーニング形式を取り入れた授業を、適切な役割分担の下、連携・協働して実施する。

○ 5月22日（火）⑦【1年生】進路（職業観・文理選択）適性検査（Recruit）

○ 5月23日（水）⑦【2年生】進路（学部・学科系統別）適性検査（Recruit）

○ 6月 7日（木）⑤⑥⑦

アクティブ・ラーニング型キャリア教育プログラム

【1年生】『職業理解・働く意義』

【2年生】『志望系等に関する社会理解②』

○ 7月10日（火）⑦【1年生】5月進路適性検査説明会（Recruit）

○ 7月10日（火）⑦【2年生】5月進路適性検査説明会（Recruit）

○ 9月19日（水）⑦、9月26日⑤⑥⑦

アクティブ・ラーニング型キャリア教育プログラム

【2年生】『志望系等に関する社会理解②』

○10月30日（火）⑦【2年生】進路〔学部・学科〕適正検査（マイナビ）

12月 5日（水）⑦【2年生】進路〔学部・学科〕適正検査説明会（マイナビ）

(13) センター対策の充実

代々木ゼミナールと連携して、夏休み（8月11日）に、3年生希望者対象に、実力講師による効果的なセンター対策講習を実施する。

(14) 志望理由書を書かせて、モチベーションを高める指導

2年生の総合的な学習の時間等に、学研の講師による講習会やテキスト等活用して、志望する進路先の「動機」、「志望系統に関する社会的問題」、「学びたい学問」、「志望先の特徴」等、さらには「自分自身の魅力」を熱意を持って、2年学年末時までに志望理由書を書かせる。また、それを学研による添削指導を実施・指導する。また、受験教科等を調べさせ、志望校に進学するモチベーション・学習意欲を高めさせる指導を計画的に実施する。

○ 1月 9日（火）⑦【2年生】志望理由書講習会①（学研）

○ 2月20日（水）⑦【2年生】志望理由書講習会②（学研）

(15) 進路面談・相談の充実

○生徒の進路を取り巻く環境の変化や生徒の学力、気質などが変化している現状を把握し、今までの面談の内容・方法について改善していく。

○生き方や進路、科目選択等の悩みなどを受け止め、自己の可能性や適性についての自覚を深めさせたり、適切な情報を提供したりしながら、自らの意志と責任で進路を選択できるようにするため指導援助する。

○目標設定等による自発的な学習意欲を喚起させる。

(16) 指定校開拓

○生徒の志望が多い私立大学と指定校について協議する機会を設定して、指定校を開拓して、今までよりも、頑張った生徒が進路実現の可能性を広げる取組をしていく。

(17) 難関大学対策の充実

○より高い進路希望を低学年から持たせり、積極的に難関大に挑戦する意欲と姿勢を育てる

○上位層の頑張りが生徒の意欲に火をつける。友達の多くが国公立大・難関私大等を目指す集団心理（団体意識）的に中位、下位の生徒も『自分にもできるかもしれない』『みんな頑張っているから自分も頑張ろうと思える』少なからず生徒が増える。さらに上位層の意欲が中下位層の意欲にひっぱられ、お互いに成績の向上にいい効果が期待できる。

→難関大にも合格者を出せる学校にして → 学校のブランド化をできるだけつなげたい

○具体施策

1. 進路部長面談等活用して、本校の生徒は、難関大は『自分には無理』と思い込み、自分の限界を決めつけてしまう傾向がある。そこで可能性のある生徒には、できるだけ低学年時からアドバイスや誘導（担任・進路指導部と連携）オープンキャンパス等も勧めたりして、本人が是非行きたい意思が強くなるようにする。

【指導】○担任は、該当生徒に面談等で、適切な指導・助言を行う。

○模擬試験等の成績により、担任と連携をとり適時進路からも面談を行い、意識付けのつながる、適切な指導・助言を行う。

→その面談の内容は、担任にフィードバックする。

2 担任の先生等へ、難関大説明会（駿台・河合塾等）資料等の提供

3 難関大模試（駿台・河合模試等）を生徒に積極的に勧める。

4 難関大〔東北大学〕オープンキャンパス企画

5 難関大学在籍中の先輩からの報告会等を企画・実施

6 難関大対策課外の実施（希望者対象）

7 難関大学入試の効果的な対策と戦略

(18) 土曜課外について

○宇都宮大学小山サテライトプラザを活用して、進路指導の土曜課外を実施する。※より効果的なものになるように企画。

(19) 大学理解の促進・受験生支援：大学説明会の実施方法・内容等改善

※大学案内配布会等の実施【7月23日（月）】

- (20) 医療看護系志望者への指導体制の確立と指導の充実
○医療系ガイダンス① 7月24日(火)
・看護・理学療法・作業療法(国際医療福祉大学)
・臨床放射線・臨床工学(群馬パース大学)
○医療系ガイダンス② 2月22日(金)【医療人としての心構え】
- (21) 生徒・保護者へ進路関係情報の積極的に提供
◎保護者のための進路Guidanceを開催
◆10月27日(土) 10時～ 小山市生涯学習センター
対象：1年生保護者 講師：河合塾
テーマ：新入試の概要と留意点について
◆11月17日(土) 14時～ 小山市生涯学習センター
対象：2年生保護者 講師：依頼中
テーマ：マネープランニングについて
- (22) 入試改革・最新の入試環境・受験指導の研究
※Benesse、予備校等が実施する各研修会・研究会等への参加。
- (23) 学習指導部主催 現職教育に協力
9月28日(金) 15時15分～16時45分(90分)
テーマ：『新学習指導要領・新入試の現状の理解
及びそれに向けた授業改善、指導の対応について』
講師：Recruit高校支援統括部長 山下真司様で調整中
-

※行事の精選の視点から、以下の点について、来年度検討する。

- (1) 今年度は、百周年の関係で、11月の1、2年生校内模試はない。
現在、本校は2年生は年4回実施しており、他校と比較しても多く、
11月はその他、進研模試や期末テストとテストが過密することで
復習する時間的環境が厳しいということから、支障がなければ
次年度以降も11月は実施せず、1年生9月、1月の2回、
2年生は6月、9月、1月の3回としていく方向の点。
- (2) 3年生の校内模試については、
①他の進学校は6月は実施している学校が多いことから、
9月からは全国模試に移行して、4月と6月計2回実施。
②6月は進研マーク模試、期末テストと過密であることから、
生徒の復習等の時間を確保する視点で、4月・9月計2回の実施。